

第2学年 道徳科学習指導案

指導者 原田 明子

1 **主題名** 勇気をもって A 善悪の判断、自律、自由と責任

2 **教材名** 「おれたものさし」(出典：東京書籍 一部改作)

3 **主題について**

(1) 内容項目

よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと
(第1学年及び第2学年)

(2) ねらいとする価値

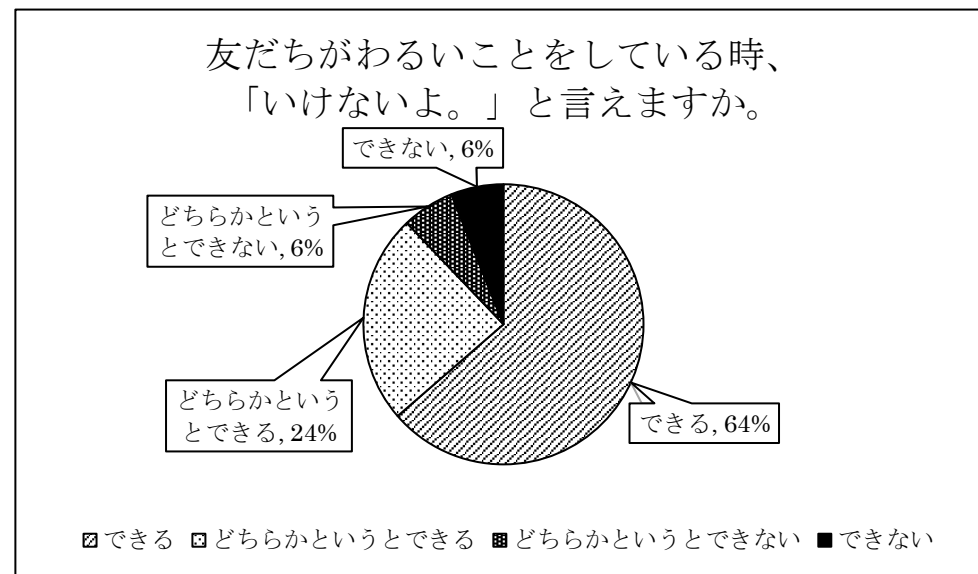
本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編における、A「主として自分自身に関すること」の「(1) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」に関する内容項目である。よいと思ったことを進んで行うことは大切だ、ということは分かっている、周りの友達との関係や、状況によって進んで行うことは難しい。正しいことを行うために勇気が必要な登場人物の状況や心情に十分に共感させ、どんな時でも、自分で善悪を正しく判断し、勇気をもって、進んでよいことを行うことができる児童を育てたい。

4 **価値にせまるための事前アンケート**

3組児童は、明るく元気のよい児童が多く、授業中にも活発に考えを発言することができる。友達同士は、男女問わず仲が良く休み時間には外で元気に遊んでいる。ただ、毎日の生活の中で小さなトラブルもあり、担任に困っていることを相談に来ることも多い。

道徳に関するアンケートの結果、友達が悪いことをしている時に「いけないよ。」と言えると感じている児童が半数以上いる。ただ、日頃の様子を見ていると、いつでも誰に対してもできているわけではなく、「いけないよ。」という声のかけ方や声をかける相手によって更にトラブルになることも少なくない。

本時の学習を通し、「勇気をもって」自分自身がよいと思うことを行ったり、友達に対して思いを伝えられたりできるようにしていきたい。



1 / 1 時間目

本時の
目標

- ・よいこと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てる。

本時の
評価

- ・よいこと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとしている。

おれたものさし

だご二三回 道とく

のぼる

ひろし

ぼく

何も言えずにいる

まわりの友だち

おれたものさしをひろしにわたす

何も言えなかった「ぼく」が心の中でさげんだことを考えよう。

ぼくのさし絵

・ひろしはわるくない。
・また人のせいにしている。
・本当のことを言わないと。

・のぼるはこわいから言いにくい。
・どうしよう。
・まわりの友だちものぼるのみ方をしている。

授業改善のポイント



見通しをもって粘り強く取り組む

漫画を提示することにより、本時の主題に結びつけ、見通しをもって取り組めるようにする。



思考を表現に置き換える

役割演技で自分の考えを表現することにより、登場人物の気持ちに共感できるようにする。



振り返って次につなげる

今までの自分を振り返ることで、今後の実践意欲がもてるようにする。

①つかむ

- 漫画を読み、考えたことを発表する。
- ・漫画に興味をもたせ、本時の学習課題につなげる。
- 教材文を聞く。
- ・「おれたものさし」を紙芝居にして範読する。

②考える・学び合う

- 教材文を振り返る。
- ・登場人物の関係性を把握できるようにする。
- のぼる（ひろしに自分のおったものさしをもたせる）
- ぼく（のぼるに何も言えずにいる）
- ひろし（のぼるにおれたものさしをもたされる）
- 周りの友達（はやしたてる・黙って見ている）
- 何も言えなかった「ぼく」が心の中でさげんだことを考える。
- ・言えなかった状況や本当は言いたい気持ちにもつなげる。

③振り返る

- のぼるに対して「何も言えないぼく」と「言いたいぼく」の役割演技をする。
- ・「ぼく」の気持ちをセリフにして理由もつけて会話をさせる。（グループ→全体）
- ・「ぼく」の心の中の迷いが分かるようにする。
- ・いけないとわかっても言えない気持ちに共感させる。

- 今までの自分を振り返り、迷ったことや迷った末に勇気を出して行動できたことを書く。
- ・これまでの経験から書かせる。
- 書いた経験を発表する。
- 教師の話聞く。
- ・はじめに提示した漫画とも結びつけ、教師の経験を話す。